

事業概要説明シート

事務事業番号 30764

事務事業名	市民病院施設維持管理事業		
事業開始年度		担当部署	市民病院総務課

根拠法令	市立枚方市民病院防火管理規程 市立枚方市民病院電気工作物保安規程
実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:株式会社 クリーン工房大阪支店) <input type="checkbox"/> その他()
目的 (何のために)	病院施設及び設備の維持管理を適切に行う。
対象 (誰・何を対象に)	市民
事業内容	病院施設及び設備の維持管理 委託業務・施設維持管理(点検等含む)・清掃業務・保安警備業務・電話交換業務・植木剪定・病院給食配膳・ごみ搬出及び残飯収集
類似事業	国・公立及び民間病院
事業の必要性	適切な診療や療養環境の保持と関係法令の遵守のため、病院運営を継続する限り施設の維持管理は必要である。

	H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費
正職員	1.02 人	8,276 千円	1.02 人	8,252 千円	1.02 人	8,160 千円
再任用職員	1.00 人	3,508 千円	1.00 人	3,450 千円	1.00 人	3,471 千円
非常勤職員等						
人件費計(A)		11,784 千円		11,702 千円		11,631 千円
直接経費(B)		349,767 千円		347,033 千円		343,971 千円
総事業費(A+B)		361,551 千円		358,735 千円		355,602 千円

財源内訳	H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
		千円		千円		千円
国庫支出金						
府支出金						
受益者負担 (使用料等)	361,296	千円	358,462	千円	355,372	千円
その他		千円		千円		千円
一般財源	255	千円	273	千円	230	千円

平成23年度 事業費の主な内訳 (人件費除く)	内 容		金 額
	施設管理委託料(122,535)・機械設備保守委託料(17,101)		139,636 千円
	建物修繕料(14,321)・機械備品修繕補修(11,628)・減価償却費(60,578)等		90,158 千円
	光熱水費(電気53,487、ガス14,057、水道34,205)・燃料費(15,490)		117,239 千円

事務事業名	市民病院施設維持管理事業		
事業開始年度		担当部署	市民病院総務課

	活動指標もしくは成果指標	単位	H22年度	H23年度	H24年度(見込み)
活動実績	① 施設・設備の維持管理				
	②				
	③				
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	①				
	②				
	③				
成果目標 (目標とする成果)	平成17年度の電気使用量(3,511,450k/wh)を基準とし3%削減を目標とする。 平成23年度実績3,434,372kw/h(削減率2.2%) 平成22年度実績3,482,048kw/h(削減率0.84%) 平成21年度実績3,421,541kw/h(削減率2.56%) 老朽化した施設・設備を効率的かつ適切に維持管理し、安全で快適な利用環境を提供する。				
比較参考値 (他自治体での事業の例など)	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府内の同規模病床数の公立病院の光熱水費 本院 (335床) 延面積(17,390㎡) 101,749千円 箕面市立病院(317床) 延面積(34,037㎡) 185,011千円 和泉市立病院(307床) 延面積(21,058㎡) 123,540千円 市立池田病院(364床) 延面積(38,778㎡) 223,884千円 委託業務の範囲は府下の公立病院と比較して、同程度である。 				
特記事項	新病院建設工事が進行中であるが、平成26年度の開院まで老朽化した現在の施設・設備を安全を第一としながら効率的かつ適切に維持管理する。				
一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	現状のまま継続	引き続き施設の適切な維持管理に努める。			
一次評価結果	<ul style="list-style-type: none"> 電気使用量の削減を目標に掲げているが、達成に向けてどう取り組むのか。 コスト削減の検討が必要では。 				
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	現状のまま継続	電気使用料の削減については、日常における照明器具について安全を確保したうえで管球の取り外し・小まめな消灯等引き続き、節電に努める。 夜間電力を利用したアイスチラーの冷房への活用により、電気冷房機の運転時間の短縮を図る。 電力の供給については競争入札制度を導入し、電気料金の単価の引き下げ・電気料金の削減に努めている。			